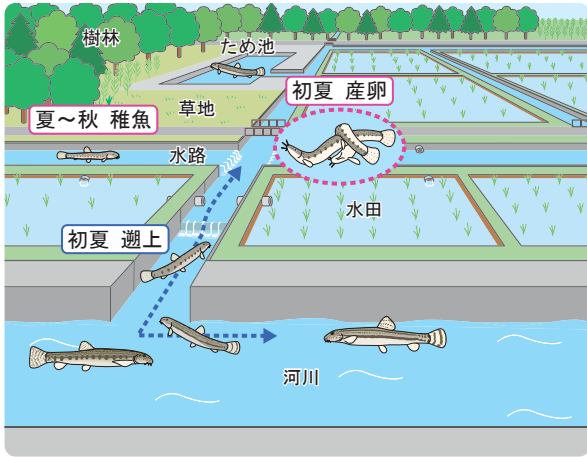


**メモ** シマドジョウ、スジシマドジョウ類ともに地域変異が大きく、スジシマドジョウ類には大型種(L)、中型種(M)、小型種(S)の3種類が含まれます。さらに、小型種は地域ごとに、いくつかの型に分けられます。

**生態** -----: 本来の移動経路    ○: 生息環境



**主な産卵環境と生息環境** <-->: 主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
			産卵	産卵	

**生活史**

河川や水路、水田に生息します。砂礫底や砂泥底で生活し、越冬もします。初夏に水生植物の根や茎に産卵します。(水田に遡上して産卵する場合があります。)

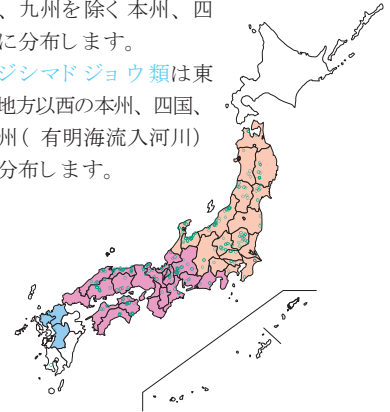
**写真**



シマドジョウの仲間は分類が難しく、斑紋のパリエーションも多くみられます。その他、九州にはヤマトシマドジョウという種も分布します。

**分布**

シマドジョウは山口県西部、九州を除く本州、四国に分布します。スジシマドジョウ類は東海地方以西の本州、四国、九州(有明海流入河川)に分布します。



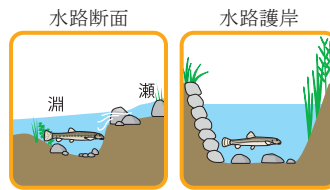
●: 「田んぼの生きもの調査」での確認箇所

**配慮対策**

**生息環境の確保**

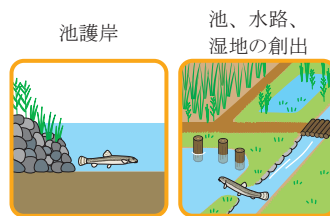
水路、ため池における砂礫底・砂泥底、水生植物の創出

◆環境配慮型水路の対象工法



- 【水路断面】
- ①瀬・淵 p.69
  - ②ワンド p.70
  - ④敷石、砂、砂利、玉石、植生 p.72
- 【水路護岸】
- ⑤土水路 p.73
  - ⑥かご系 p.74
  - ⑦木系 p.75
  - ⑧自然石系 p.76
  - ⑨二次製品系 p.77

◆保全池・ビオトープの対象工法



- 【池護岸】
- ②複合系 p.86 (捨石等による緩傾斜護岸)
- 【池、水路、湿地の創出】
- ⑥保全池 p.90
  - ⑦承水路 p.91
  - ⑧耕作放棄地等のビオトープ化 p.92

【配慮ポイント】

・産卵環境となる水草が生育でき、生活および越冬環境となる砂礫底・砂泥底を形成する工夫が必要です。

**移動経路の確保**

水路内の落差の解消

◆魚道の対象工法

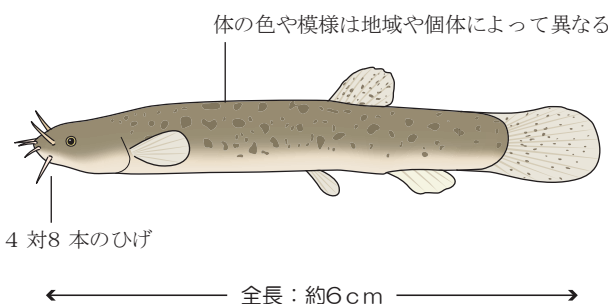


- 【水路魚道】
- ⑤階段型 p.61
  - ⑥隔壁型(千鳥X型) p.62
  - ⑦隔壁型(ハーフコン型) p.63
  - ⑧片斜面粗石付魚道 p.64

【配慮ポイント】

・水路における生息を配慮して、水路魚道を設置します。匍匐型の遊泳をするため、いずれの魚道タイプも適用できます。

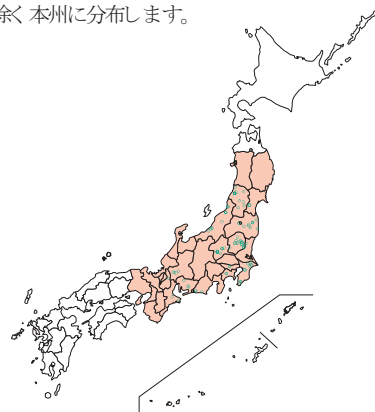
別名：ダルマドジョウ、ホトケ



**メモ** 地蔵が魚に化けたという言い伝えのように、ずんぐりしたドジョウの仲間です。湧水環境を代表する魚です。

## 分布

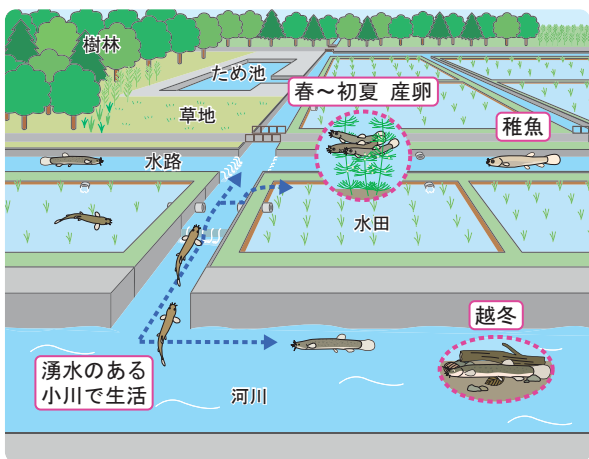
青森県、中国地方西部を除く本州に分布します。



●：「田んぼの生きもの調査」での確認箇所

## 生態

---> : 本来の移動経路    ○ : 生息環境



## 主な産卵環境と生息環境

↔ : 主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
		産卵	産卵	産卵	

## 生活史

湧水のある小川や水路の砂泥底に生息します。春から初夏に、浅い砂泥底の水草などに産卵します。谷津田にも遡上して産卵します。水深のある泥底で越冬します。

## 写真


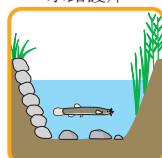


ホトケドジョウは、湧水環境に強く依存し、谷津の小川が主要な生息場所となっています。開発にともなう湧水源の消失により、急速に生息地が減少しています。

## 配慮対策

### 生息環境の確保 湧水、砂泥底、水草の創出

◆環境配慮型水路の対象工法

水路断面	【水路断面】	
	①瀬・淵	p.69
	②フンド	p.70
	④敷石、砂、砂利、玉石、植生護岸	p.72
水路護岸	【水路護岸】	
	⑤土水路	p.73
	⑥かご系	p.74
	⑦木系	p.75
	⑧自然石系	p.76
	⑨二次製品系	p.77

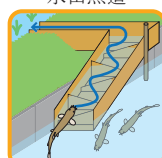

### 【配慮ポイント】

・生活や越冬環境となる、湧水と砂泥底を形成する工夫が必要です。産卵環境となる水草を生育させることが必要です。

### 移動経路の確保

水田と水路間の落差の解消、水路内の落差の解消

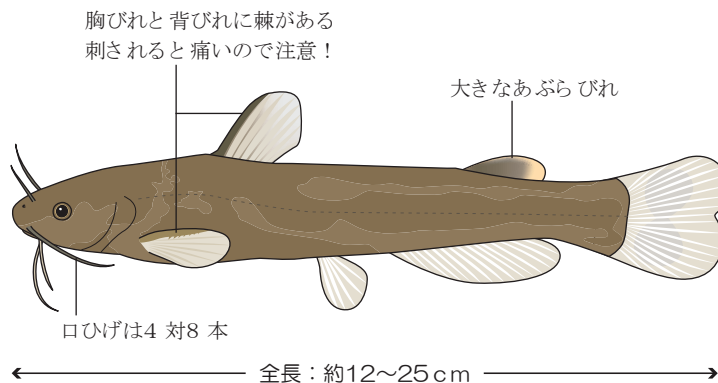
◆魚道の対象工法

水田魚道	【水田魚道】（谷津田のみ）	
	④波付管	p.60
水路魚道	【水路魚道】	
	⑤階段型	p.61
	⑥隔壁型（千鳥X型）	p.62
	⑦隔壁型（ハーフーン型）	p.63
	⑧片斜面粗石付魚道	p.64

### 【配慮ポイント】

・水路における生息を配慮して、水路魚道を設置します。また、谷津田にも遡上して産卵するため、水田魚道を設置します。匍匐型の遊泳をするため、いずれの魚道タイプも適用できます。  
・下流側に魚道をつけると、カラムツなど今までいなかった魚が遡上して害をおよぼす場合もあるので注意します。

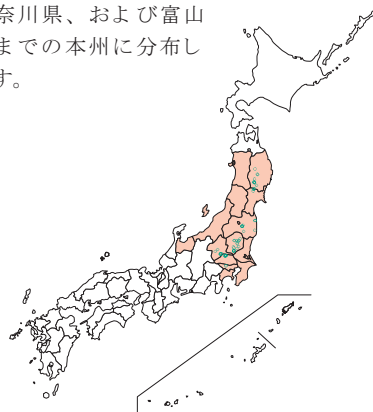
別名：ギギウ、カワバチ



**メモ** 体は細長く、体色は茶褐色～黒褐色で鱗はありません。胸びれと基底部の骨をすり合わせてギョッギョッと音を出します。

### 分布

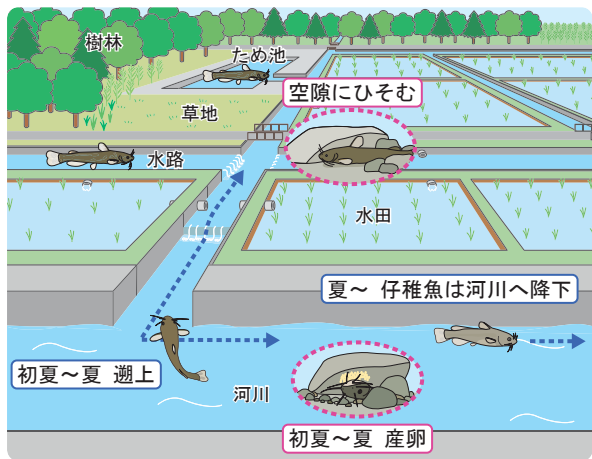
岩手・秋田両県下から神奈川県、および富山県までの本州に分布します。



●：「田んぼの生きもの調査」での確認箇所

### 生態

----▶：本来の移動経路    ◯：生息環境



### 主な産卵環境と生息環境

↔：主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
	産卵		産卵	産卵	

### 生活史

河川や水路に生息し、日中は石の下などの空隙に隠れ、夜間に活動します。初夏から夏に、石の下や水草の根などに産卵します。

### 写真



ギバチ



アリアケギバチ

九州には、アリアケギバチという別種が分布します。その他、近似種として、西日本にギギ、伊勢湾流入河川にネコギギが分布します。ネコギギは国の天然記念物に指定されています。

### 配慮対策

#### ■ 生息環境の確保

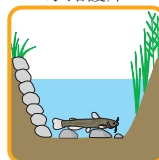
##### 水路、止水域における空隙、石、水草の創出

##### ◆ 環境配慮型水路の対象工法

##### 水路断面



##### 水路護岸



##### 【水路断面】

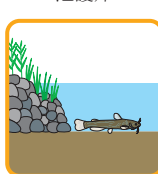
- ①瀬・淵 p.69
- ②ワンド p.70
- ④敷石、砂、砂利、玉石、植生 p.72

##### 【水路護岸】

- ⑤土水路 p.73
- ⑥かご系 p.74
- ⑦木系 p.75
- ⑧自然石系 p.76
- ⑨二次製品系 p.77
- ⑩複合系（井桁護岸） p.78

##### ◆ 保全池・ビオトープの対象工法

##### 池護岸



##### 池、水路、湿地の創出



##### 【池護岸】

- ①自然石系 p.85
- ②複合系 p.86
- （捨石等による緩傾斜護岸）
- ③かご系 p.87
- ④木系 p.88
- ⑤二次製品系 p.89

##### 【池、水路、湿地の創出】

- ⑥保全池 p.90
- ⑦承水路 p.91
- ⑧耕作放棄地等のビオトープ化 p.92

##### 【配慮ポイント】

・ 生息および産卵環境となる、空隙、石、水草を創出する工夫が必要です。

#### ■ 移動経路の確保

##### 水路内の落差の解消

##### ◆ 魚道の対象工法

##### 水路魚道



##### 【水路魚道】

- ⑤階段型 p.61
- ⑥隔壁型（千鳥X型） p.62
- ⑦隔壁型（ハフコン型） p.63
- ⑧片斜面粗石付魚道 p.64

##### 【配慮ポイント】

・ 水路における生息を配慮して、水路魚道を設置します。体高が低い浅い水深でも遡上しますが、匍匐型の遊泳ではないため、流速を緩やかにする工夫が必要です。